

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 24 日現在

機関番号：34602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04223

研究課題名(和文) 学校衛生組織活動史研究 明治期の地方私立衛生会と学校衛生の接点

研究課題名(英文) Research on school hygiene history - local hygiene associations and schools in the Meiji era -

研究代表者

高橋 裕子 (Takahashi, Yuko)

天理大学・体育学部・教授

研究者番号：30206859

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：これまで学校保健の歴史といえば政府による学校衛生制度の歩みのことであった。そこで本研究では、明治15年前後から全国各地に発足した私立衛生会に着目し、その活動を検討することで地域と学校現場の学校衛生史の一端を明らかにした。資料はそれらの機関誌を用いた。

その結果、新潟では、学校医による三島通良の発育研究の応用、トラホーム治療の論議、教員が発信する衛生研修活動が、京都では、政府による学校医制度の前に学校医建議案が浮上し、また初期学校歯科衛生活動の事例もあり、大阪では、学校医がトラホーム撲滅策を説いていた。地域が発信する新構想や活動があり、現学校保健システムとは別の選択肢もあったことがわかった。

研究成果の概要(英文)： In previous studies of the school health history, they mainly researched school health law history by Japanese Government. Therefore, in this research, we focused on the actual situation and suggestion of school health in local side. Fortunately, around 15th Meiji Period, the private hygiene association were founded in each locality. And also they published their magazines. We researched them as the historical documents.

The results were follows; (1)Niigata :A school doctor referred the Michiyoshi Mishima's growth survey. They discussed the Trachom treatment issue. And a teacher proposed the hygiene education for teacher's workshop. (2)Kyoto:They proposed their school doctors system, before the Meiji Government established. And they already did school dental hygiene activities.(3)Osaka:A school doctor suggested what school doctors should do for the Trachom prevention.

In Meiji Era, each local side, pioneering activity or option for school health had been suggested.

研究分野：学校保健

キーワード：明治期学校衛生史 地域私立衛生会 学校現場

## 1. 研究開始当初の背景

今日の学校保健の問題は、心の健康や、食物アレルギー・アナフィラキシーショックへの対応など、いっそう複雑化し、困難化している。そのため、これまでのように、学校保健管理を担う養護教諭の専門性に委ねるばかりではなく、学校長が高い学校保健認識を持ち、リーダーシップを発揮しながら、学校全体で取り組むことが求められている。こうした背景から、学校保健の歴史研究においては、このような学校保健の組織活動の源流を探り、学校衛生組織活動史という新しい歴史を素描することが求められている。

## 2. 研究の目的

学校保健とは、学齢期の子供のための保健管理・保健教育のことで、学校教育がこれを担っている。戦前は、学校衛生と呼称された。その歴史については、主に、学校衛生制度の歩みが明らかにされてきた。この制度史によれば、学校衛生の嚆矢は、明治24年に明治政府が学校衛生政策に着手した時であり、明治30年代を中心に、学校清潔方法、身体検査規程（直轄学校・公立学校）、学校医（「公立学校ニ学校医ヲ置クノ件」ほか）、学校伝染病予防及消毒方法、などの学校衛生制度を次々と確立して行ったとされる。

そこで、本研究では、地域私立衛生会に注目する。これは、明治16年の大日本私立衛生会という全国組織の発足に前後するように、全国の各地域でも発足しはじめた県・郡単位の衛生会であり、大日本私立衛生会との支会として、また場合によっては、全く独立した組織として主体的に創設された。このような地域私立衛生会と近隣の学校との交流を明らかにすることによって、個々の地域や学校には自治的・組織的な学校衛生活動があり、明治政府が学校衛生制度を制定した後も、それとは異なる独自の組織的な取り組みもあったという仮説、換言すれば、地域と学校現場の学校衛生史の一端を解明する

ことをめざした。

## 3. 研究の方法

「2. 研究の目的」に述べた、地域私立衛生会は、いずれも、その活動の一環として、機関誌を発行していた。この機関誌を資料に用いることで、事実や認識を実証的に明らかにした。

現在、残存する地域私立衛生会誌は、主に次の3ヶ所に所蔵されている。

1) 東京大学大学院附属近代日本法政史料センター(以下、東大法政史料センター)

2) 国立国会図書館:

インターネットで入手可能なもの  
館内のみ入手可能なもの

3) 全国都道府県の公立図書館

これまですでに、上記の1) 2) の、および、3) のうち岐阜県立図書館蔵のものについては、この研究以前にほぼ入手しているため、本研究では、それ以外の、未入手資料に焦点をあてて収集した。

## 4. 研究成果

平成27年度

(1) 『新潟県衛生会雑誌』には、学校医による三島通良の発育研究の活用、校医のトラホーム治療への論議、教員から発信された衛生研修活動、という注目すべき学校衛生の研究・活動が報告されていた。なかでも、の事例が示すように、新潟県の一学校医が、三島の調査を参考にしながら当地域の学校の発育研究を行い、新潟県私立衛生会の機関誌がその報告の場となっていたことの意義は大きいと考えられる。また、北魚沼郡の教員らが「某衛生家」を夏期講習会講師に招いて衛生問題を講究し、機関誌はこれを高く評価していた。西蒲原郡の衛生教育聯合幻灯会では、学校長が積極的に地域社会に向いてこの衛生事業に携わっていた。「教育衛生」の幻灯会は、就学勧誘という教育普及面と清潔法という衛生普及面の相乗効果があ

る、と認識されていた。これらは、地域私立衛生会と学校の双方向からの組織活動の事例であり、学校衛生組織活動史の一端といえる( )。

(2)明治期後期～大正期になると、私立衛生会とは別に、「学校衛生研究会」と「大日本学校衛生協会」という、二つの学校衛生専門組織が創設される。そこで、本研究の主資料・地域私立衛生会雑誌を補強する意味で、両専門誌を取り上げ分析したところ、もともと衛生は「科学の応用」だから「生理学及衛生」を普通教育で教えるべき、との衛生教育論や、「国民必須ノ教育」では病氣・虚弱の「特殊ノ事情」を「顧慮」して教育すべき、とする教育権保障の観点からの新しい学校衛生論があった。

平成 28 年度

(3)京都に焦点をあてることで、この地域の実態史が明らかになった。それとともに、前年度に検討した新潟の事例と比較することで、「都市京都の学校衛生」という新しい歴史・地域性が浮かび上がった。このことは、本研究のような、地域間比較が可能となる地域史研究がなした大きな成果と言える。また、初期・学校歯科衛生活動ともいえる京都の事例を明らかにすることもできた。

平成 29 年度 (最終)

(4)3年間の研究成果を総括し、「2.研究の目的」で述べた、地域と学校現場の学校衛生史を明らかにした成果とその意義を整理すれば、次の2点と考えられる。

第一に、地域には、明治政府の学校衛生制度とは異なる選択肢があり、なかには、具体的に展開した事例もあったという点である。この知見は、歴史研究としてきわめて重要であると考えられる。たとえば、京都では、学校医が明治31年に制度化される以前に、学校

医建議案が浮上していた(拙稿「明治期京都の学校医設置構想」2017年9月)。また、大阪では、本来は治療しない職制・学校医に治療を行わせるとするトラホーム撲滅策が説かれていた(拙稿「学校保健史研究における地域私立衛生会雑誌の資料的価値」2018年3月)。これは本研究の資料・地域私立衛生会誌、つまり、地域誌によってこそ解明しえた成果とも言える(同前)。

第二に、学校衛生史・学校保健史研究における、明治期:医学的 大正期:社会的 昭和期:教育的学校衛生という、これまでの制度史解釈とは異なる側面を明らかにした点である。明治30・40年代においても、教育を重視する学校衛生論や活動はいくつもあった(拙稿「学校歯科衛生史と教育的学校衛生論の原点」2017年3月)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者には下線)

[雑誌論文](計5件)

(1)高橋裕子「学校保健史研究における地域私立衛生会雑誌の資料的価値」日本教育保健学会年報、第25号、2018年3月、13～22頁。  
<査読有>

(2)高橋裕子「明治期京都の学校医設置構想 都市衛生の一環としての学校衛生」東海学校保健研究、第41巻第1号、2017年9月、135～146頁。 <査読有>

(3)高橋裕子「学校歯科衛生史と教育的学校衛生論の原点 明治期京都における初期の活動事例と大西永次郎の学校衛生論の検討」愛知教育大学研究報告(教育科学編)、第66輯、2017年3月、169～177頁。 <査読無>  
<http://hdl.handle.net/10424/7066>

(4)高橋裕子「新潟県私立衛生会と学校衛生 学校保健の組織活動史研究1」Iris Health(愛知教育大学保健環境センター紀要)、第14号、2015年12月、5～15頁。 <査読無>  
<http://hdl.handle.net/10424/6615>

(5)高橋裕子「初期学校衛生雑誌の考察 学校衛生研究会『学校衛生』と大日本学校衛生協会『日本学校衛生』」愛知教育大学研究報告(教育科学編) 第65輯、2016年3月、193～201頁。<査読無>

<http://repository.aichi-edu.ac.jp/dspace/handle/10424/6442>

〔学会発表〕(計6件)

(1)高橋裕子「学校保健の組織活動史研究(6) 信濃衛生会『信濃衛生』から見た明治期後期の地域学校衛生」第64回日本学校保健学会、仙台国際センター、2017年11月。

(2)高橋裕子「学校保健の組織活動史研究(5) 地域私立衛生会雑誌の資料的価値」第64回近畿学校保健学会、和歌山県立医科大学、2017年7月。

(3)高橋裕子「学校保健の組織活動史研究(4) 明治期京都における都市衛生としての学校衛生」日本学校保健学会第63回学術大会、筑波大学、2016年11月。

(4)高橋裕子「学校保健の組織活動史研究(3) 明治期京都の学校歯科衛生と教育的学校衛生論の原点の考察」第59回東海学校保健学会、グランシップ(静岡市)、2016年9月。

(5)高橋裕子「学校保健の組織活動史研究(2) 新潟県私立衛生会と学校衛生」第13回日本教育保健学会、茨城大学、2016年3月。

(6)高橋裕子「学校保健の組織活動史研究(1) 学校衛生の専門団体の検討」第58回東海学校保健学会、愛知学院大学、2015年9月。

〔図書〕〔産業財産権〕および〔その他〕

(計0件)

ホームページ等。なし。

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

高橋裕子 (Takahashi Yuko)

天理大学・体育学部・教授

研究者番号：30206859

(2)研究分担者、(3)連携研究者、および、(4)研究協力者。ともになし。